

中部 だより



中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。

フードクリエイターの聖地を目指す！ 「emCAMPUS」からはじまる東三河フードバレー構想

1. 独自の地域文化を形成する東三河

愛知県東部に位置する東三河は、8市町村（豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村）で構成されており、域内人口は2022年3月時点で約74万人、面積は約1,720km²と愛知県の1/3を占める。北部・東部は山間地、中央の平野部には豊川が流れ、西部は三河湾、南部は太平洋に面した自然豊かな地域だ。温暖な気候と豊かな水資源を背景に、全国でも有数の農業が盛んなエリアとして、食をはじめ独特の地域文化を育んできた。

2. 豊橋駅前の隆盛と空洞化

東三河の玄関口を担う豊橋駅は、東海道新幹線、東海道本線、飯田線、名鉄名古屋本線、豊橋鉄道が乗り入れる一大ターミナルとして機能している。駅前には、1960年代から1970年代にかけて商業ビルなどが多く建設され隆盛を誇ったが、1990年代後半から2000年代前半にかけてビルの老朽化による取り壊しや、商業施設の撤退が相次ぎ、駅前の空洞化が進んだ。

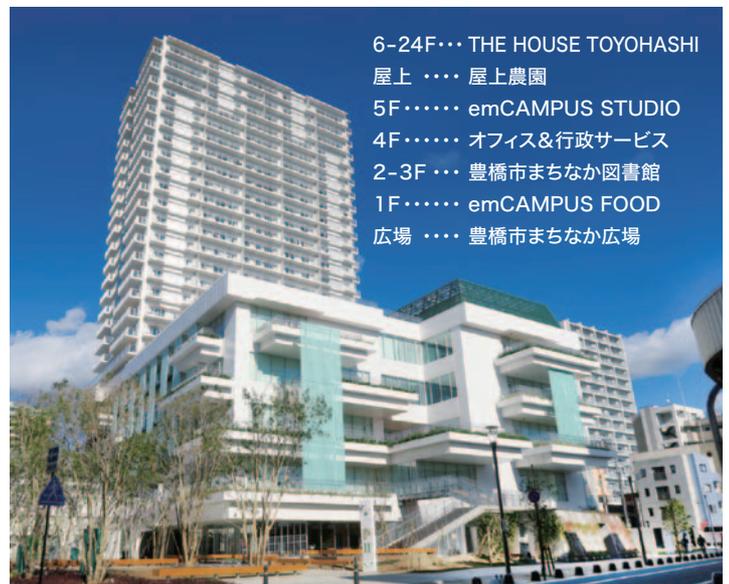
このような事態を受け、行政は豊橋市中心市街地活性化基本計画を掲げ、駅前周辺エリアのにぎわいの創出、商業・サービス業の活性化、まちなか居住の促進を図る施策を展開し、民間事業者によるマンション建設、駅前複合商業ビル建設、市民主体のイベントを行ってきた。しかし、個々の施策、事業は一定の成果を取ってきたものの、効果は限定的だった。

3. 官民連携による再開発のコンセプトづくり

この状況に危機感を覚えた豊橋駅前大通り地

区では、地域の官民が連携して駅前の再開発の方向性を議論する「豊橋駅前大通南地区まちなみデザイン会議」を2008年に民間主導で立ち上げ、関係する主要な企業、団体、行政が参画。2011年には地区全体にエリアを拡大した。さらに、2016年には再開発の具体化・事業を担う「豊橋駅前大通二丁目地区市街地再開発組合」を発足し、再開発地区およびその周辺エリアを視野に入れた空間づくりの検討を行った。

組合での議論を通じ、「みんなが主役となりつながりを生み出すまちの拠点をつくる」が再開発のコンセプトとなり、“東三河エリア・豊橋のことを好きな人”、“暮らしたい人”、“誇りを持つ人”、“訪れたい人を増やすこと”といった“人”が主役となり、想いを多くの人々が共感し関わる場として、あらゆることに“つながり”を生み出す起点となる施設を検討。2021年7月、この概念を具現化する施設として「^{エムキャンパス}emCAMPUS」が竣工した。



6-24F... THE HOUSE TOYOHASHI
屋上 ... 屋上農園
5F... emCAMPUS STUDIO
4F... オフィス&行政サービス
2-3F... 豊橋市まちなか図書館
1F... emCAMPUS FOOD
広場 ... 豊橋市まちなか広場

emCAMPUSは豊橋市駅前大通二丁目に、2021年7月竣工、11月グランドオープンした複合ビル

4. emCAMPUSの概要

1F:emCAMPUS FOOD

「FOOD FOREST(食の森)」をコンセプトにフードホール、マーケット、レストラン、キッチンなどで構成される食の発信拠点。フードビジネスを興す人材や社会課題の解決を目指す人材の発掘・育成の支援、東三河の食を盛り上げる生産者、メーカーとのコラボレーション企画を行っている。



ピザ・和食・洋食・カフェ&スイーツの全4つのジャンルからなるフードホール



ホテルアークリッシュ豊橋の今里総料理長もメニューの監修に携わっている



マーケットには東三河を中心に、全国、世界の「美味しい」が凝縮

2・3F:豊橋市まちなか図書館



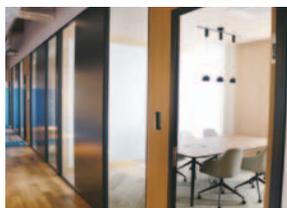
館内では原則、飲食や会話が自由にでき、静かに読書したい人向けの予約制ラウンジも完備

だれもが情報を受発信することができる「アンテナ・ライブラリー」として整備。本や情報といった従来の図書館機能を活用しつつ、市民同

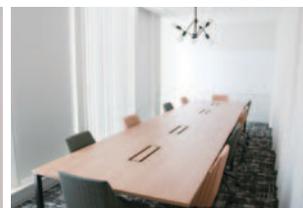
士の交流や、創造的な活動を支援する取り組みを行う。5つのゾーンに分けられ、静かに読書が出来るスペースと、さまざまなイベントを開催できるスペースを設け、館内にはカフェを併設している。

5F:emCAMPUS STUDIO

地域の企業や市民、起業を考える人たちの支援を目的に、研修や学びのプログラムを提供するスタジオ、レンタルスペース、コワーキングスペースのほか、豊橋技術科学大学のサテライトキャンパスなどで構成。「共創」をコンセプトに「生涯教育」「事業創造」「企業研修」の3つを核にした「学び」のプログラムを展開する。社会人や大学生がともに学べる地域の人材育成に資するプログラムのほか、人生を豊かにする生涯教育プログラム、スタートアップ支援拠点として起業家を応援するプログラムを提供している。



多様なレンタル会議室を用意



会議室のインテリアは部屋ごとに異なる



遊び心のあるサロン



リラックススペースも完備

屋上農園

先進的農家や料理人が知恵を出し合い、創意工夫を表現する農園として運営。収穫物の魅力を1FのemCAMPUS FOODでさまざまなかたちで発信している。



東三河が誇る農の先駆者が、独自の研究や創意工夫を表現する空中ファーム



幅約60cm・奥行約60cm・高さ約50cmの枡形プランターは奥三河杉を使用

豊橋市まちなか広場

ビル各施設や周辺のまちなかのどこからでもアクセスでき、多様な世代、多様な目的を持った人々が集い交流できるまちなかのエントランス空間。にぎわいの創出や商業の活性化など、地域の魅力を高めている。



広場ではさまざまなイベントが開催されている



イルミネーションで彩られた広場の夜景

5. 「東三河フードバレー構想」と フードクリエイター

人を主役に据えたコンセプトにもとづき誕生したemCAMPUSにとって、フードクリエイター※の育成は重要課題の一つとなっている。地域が提唱する「東三河フードバレー構想」は、持続可能

な世界に向け社会課題に取り組む食・食文化の創始者を次世代フードクリエイターと定義し、人材の発掘と育成を支援するとともに、東三河をフードクリエイターの聖地として、ブランド構築と持続可能な地域社会の実現を目指している。フードクリエイターの活躍の場、食・食文化の体験の場としての機能を備えるemCAMPUSは、人材を世界から集め、育成を支援する拠点としての役割を担っている。

emCAMPUSは現在、地域産品の販売を中心に、それらを生かした商品開発、シェフによるイベントレストラン、SNSを通じた動画配信など、さまざまな分野の専門家のネットワークと連携し、東三河の食の魅力を発信している。また、愛知県がスタートアップ支援を行う「ステーションAiプロジェクト」の東三河スタートアップ・サテライト支援拠点として、地域のさまざまな関係者との協働に向けた協議・準備を進めている。企業や大学、暮らす人々が提供する学びを通じた交流の中で、食・農だけに留まらない新たなイノベーション創出への期待が高まっている。

※フードクリエイター：かつての干害や河川の氾濫などの厳しい自然環境と共生しながら豊かな生産地を切り拓き、東三河の食のインフラを整備した先人や、そのインフラを活用して食・食文化に貢献している生産者・料理人・プロデューサーなど、多様な食・食文化の創造に関わる人材。

6. emCAMPUSに込められた想い

「em」には、East Mikawa、EatとMikawa、EducationとMikawa、Energy（健康）とMikawaなど、「E」と「M」をつなぐ意味が込められている。さらに、「E」と「M」がつながって生まれる「いい三河」は、東三河で暮らす人はもちろん、訪れた人、訪れようと思っている人、あらゆる東三河（East Mikawa）に関係する人が誇りに思い、笑みがあふれる駅前（Eki Mae）のキャンパスとなるよう願いが込められている。今後も、地域の想いや期待を背負ったemCAMPUS、そして東三河フードバレー構想の具現化に注目していきたい。

文：静岡・東三河担当

和田 耕一郎

協力：(株)エムキャンパス

